

クラス番号	611	担当教員名	牧 真吉
テーマ	子どもの育ちの中で非言語的コミュニケーションの重要性を考える 乳幼児期の体験がその後どれほどの影響を与えるかを知る		
著書・論文 研究課題等	著書・論文 「子どもの育ちをひらく」明石書店 「自閉症スペクトラムの子どもと「通じる関係」を作る関わり方」明石書店 「親と子それぞれの育ちを育む」別冊発達 32 (243～250) ミネルヴァ書房 研究課題 子どもの育ちの中から予防的な対応を考えること(乳幼児精神保健)		

ゼミナール概要

キーワード：乳幼児精神保健 非言語的コミュニケーション 育ち 地域社会

目的、内容、方法等：

生まれてすぐから始まる交流が育ちにどれほどの影響を与えているのかを事例を通して理解していく。赤ちゃんは言葉が生まれる前から非言語的にコミュニケーションを行っている。しかし、わたしたちはこの時期の交流についてはほとんど意識することなく行って、交流がうまくいっているかどうかと考えることはない。言葉は言葉の意味さえ分かることができるとすなわち言葉の言い換えを丁寧に行っていけば相手に通じると考えてしまっている。非言語のコミュニケーションがほどほどに成立していないと言語によるコミュニケーションもうまくできなくなっていることにわたしたちは気がつかないでいる。子どものケースワークを行うときにこのコミュニケーションの問題を考えることはとても重要なことである。

この非言語のコミュニケーションを理解する文章を読んで、考えるということからはじめ、その事態から起きていると考えられる事象を選び出して考える。それをもとに子どものケースワークでどんな点が落ちがちなことか気がつくようにして、そのことをいろいろな方面から卒論作りにつなげていけるように考えてみる。

合わせて周囲からの支援がいかに重要になるか素材を通して考えていけるようにする。

授業計画：

最初にもとになる理解のために(言葉が生まれる前にどのような交流が赤ちゃんとの間で行われているのか)合宿して理解を深めることから始める。

皆さんがアルバイトで行っているところなどでの出来事を出して、それを育ちの観点から考えることをする。わたしが主催している本学で行っている事例検討会へも積極的に出る。いろいろな事例から育ちを考えることをして、その中からテーマを見つけ出してもらおう。

各自が論文などを見つけてきて発表することを中期以後の中心になる。

担当教員からのメッセージ

まだほとんど取り上げられることの少ないテーマを設定しました。調べることも大事にしますが、それ以上に考えることを大事にしていきます。自ら取り組むことが中心になります。そのつもりの無い人に参加していただいても難しいと思います。テーマは非言語的コミュニケーションの育ちですが、それがその後の子どものどんな影響を与え、どんなことが起きてくるかですので、必ずしも乳児だけの問題を取り上げるものではありません。しかし、そのぐらい幅広く考えることを行います。未知の世界に飛び込みたい人の参加を歓迎します。